

問1 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。
2. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。
3. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。
4. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることが目的となったため。

問2 大陸から伝わった稲作が日本各地に広まったことは、当時の社会のあり方に大きな変化をもたらしました。収穫物の貯蔵という観点から、稲作の普及が社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。
2. 食料を保存する必要がなくなったため、人々は定住をやめて獲物を追いかける移動生活へと戻った。
3. 収穫物を平等に分配する仕組みが完成したため、ムラ同士の争いは完全になくなり平和な社会が実現した。
4. 収穫した稲を加工するために、鉄器よりも先に漢字が伝来し、役所による管理体制が全国で確立した。

問3 3世紀前半の倭（日本）の様子を伝える中国の歴史書『魏志倭人伝』において、国内で続いていた大きな乱れを鎮めるために、多くの国々によって共立されたとされる女王の名前を答えなさい。（2026年 岐阜公立入試 類似）

1. 卑弥呼
2. 持統天皇
3. 推古天皇
4. 北条政子

問4 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。
2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。
3. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。
4. 最新の農耕技術を伝えるための道具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。

問5 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2017年 岡山公立入試 類似）

1. 石包丁と高床倉庫
2. 銅剣・銅矛と高床倉庫
3. 石包丁と竪穴住居
4. 和同開珎と高床倉庫

問6 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。（2016年 大阪公立入試 類似）

1. 後漢書
2. 魏志
3. 史記
4. 日本書紀

問7 弥生文化を形成した「弥生人」の成り立ちや、その文化の特徴について説明したものとして正しいものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 大陸からの渡来人と在来の人々が混ざり合うことで形成され、稲作を基礎とした定住社会を発展させた。
2. 縄文土器を使用し、弓矢を用いた狩猟や貝塚に見られる採集を中心とした、身分差のない平等な社会を維持した。
3. 遣隋使や遣唐使を通じて大陸の律令制度を積極的に学び、天皇を中心とした中央集権的な法治国家を築いた。
4. 武士が政治の実権を握り、幕府という組織を通じて全国の守護や地頭を統制する封建的な社会を構築した。

問8 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された
2. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた
3. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた
4. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた

問9 弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 高床倉庫
2. 竪穴住居
3. 平地建物
4. 石舞台

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問2	答え 1 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。	稲作によって食料の安定的な確保が可能になりましたが、同時に収穫したコメを貯蔵できるようになったことで、それが「富」としての価値を持つようになりました。これにより、多くのコメを持つ者と持たざる者の間で貧富の差が生まれ、さらに水や土地を巡るムラ同士の争いが発生し、社会の階層化が進む要因となりました。
問3	答え 1 卑弥呼	中国の歴史書『魏志倭人伝』には、それまで男性の王が治めていた倭の国々で、長い間争い（倭国大乱）が続いたことが記されています。その混乱を収めるために、邪馬台国の女王として立てられたのが卑弥呼です。彼女は「鬼道」と呼ばれるまじないを用いて人々をまとめ、魏の皇帝からは「親魏倭王」の称号を授けられました。
問4	答え 1 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問5	答え 1 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問6	答え 1 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問7	答え 1 大陸からの渡来人と在来の人々が混ざり合うことで形成され、稲作を基礎とした定住社会を発展させた。	弥生時代は、ユーラシア大陸から九州北部などに渡来した人々と、日本列島の在来の人々が交流・混血することで「弥生人」としての特徴が形づくられた時期です。彼らがもたらした稲作技術は、それまでの狩猟・採集中心の生活を大きく変え、計画的な食料生産を可能にしました。これにより人口が増加し、階級社会や国家の形成へとつながる弥生文化が確立されました。
問8	答え 1 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問9	答え 1 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。